

# 薬連ハイライト

## 全国若手薬剤師フォーラム2016を開催!!

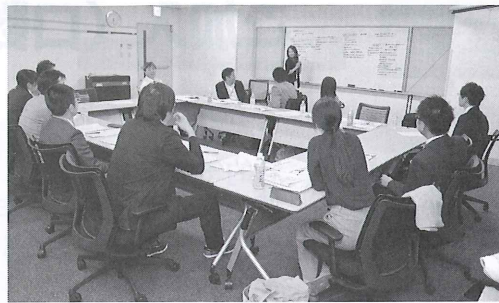
日本薬剤師連盟は、平成28年10月22日(土)、23日(日)の両日、千葉県船橋市の会議施設において、若手薬剤師94名が参加し「全国若手薬剤師フォーラム2016」を開催した。参加者は25歳から43歳の若手薬剤師で、薬局関係77名、病院関係15名、卸関係1名、大学院生1名であった。

テーマを「語れ!薬剤師の未来像」、サブテーマを「Touch To The Next!」として、これからの薬剤師の姿について、新鮮な意見を出してもらうことを目的に開催された。

山本信夫会長の挨拶のあと、来賓として参加いただいた、松本純国務大臣、藤井基之参議院議員、とかしきなおみ衆議院議員に挨拶をいただいた。

講演は、松本大臣より「国政報告」、森昌平日本薬剤師会副会長より「薬局の将来像～地域包括ケアシステムの中での薬局・薬剤師～」、石井甲一日本薬剤師連盟副会長より「日本薬剤師会の諸課題と政治」と題して行われ、続いて、8班に分かれてのグループディスカッションが行われた。途中、夕食を兼ねた懇親会が行われ、その後、夜11時頃まで活発なグループディスカッションが展開された。

二日目は、手塚幹子副幹事長の挨拶に続き、岩本研副



会長兼幹事長より「日本薬剤師連盟の歴史」と題し、医薬分業を巡る闘争の歴史が説明された。その後、各班が順番に登壇し、ディスカッションの結果を、参加者に向けて、元気かつ高らかに報告した。

最後に会長から、参加者に修了証が授与され、荻野構一副会長より、総評と閉会の挨拶が行われ、今年度のフォーラムを終了した。

本フォーラムは、平成20年度から始められたが、今回の参加者は文字通り若手であり、3年後を目指して、フォーラムの原点に戻ったような新鮮で明るい集会となった。

薬連ハイライト11月号 訂正

本文13行目 正：参議院 誤：衆議院

## もとゆき便り

### 人生100年時代の社会保障

自由民主党総務副会長  
参議院議員・薬剤師  
藤井もとゆき

今国会の最大関心事である環太平洋パートナーシップ協定(TPP)の承認案と関連法案は衆議院を通過し、論戦の場は参議院の特別委員会に移りました。本会期以内での成立に向けて与党と野党との駆け引きが続いています。

さて、自民党の「2020年以降の経済財政構想小委員会」は10月26日、「人生100年時代の社会保障へ」と題した提言を公表し、親委員会である「財政再建に関する特命委員会」に報告しました。

提言では、我が国の社会保障は戦後の高度成長期時代に形成され、多くの人が「20年学び、40年働き、20年老後を過ごす」という、単一のルールを想定して整備され、定年後の人生に政府の支援を集中することにより、国民の安心を確保することができてきましたが、終身雇用でない働き方を選択する若者、定年を超えて働く高齢者や子育てと仕事を両立する女性など、多様な生き方・働き方には対応できていないとして、2020年以降は「人生100年を生きる時代」になり、多様な生き方が当たり前となるのに応じて、労働法制や

社会保障も変わらなければならないとしています。

その上で、いかなる雇用形態であっても、企業に働く人全員が社会保険に加入して、充実した社会保険を受けられるようにする「勤労者皆社会保険制度」の創設。健康寿命の延伸に伴い、年金制度も長く働くほど得をするインセンティブを組み込み、年金受給開始年齢も働き方に柔軟に対応した「人生100年型年金」への転換。中長期的な医療介護制度の持続可能性を確保するためには、「病気になるようにする」自助努力を支援することが必要であり、健康管理に努める人の医療費や介護費の自己負担割合を軽くするなど、健康増進にインセンティブを与える「健康ゴールド免許」の導入。などの3つを柱として提言をまとめています。

今回の提言の取り扱いには定かではありませんが、盛り込まれた内容の是非はともかくとして、関心を払っておく必要はあるかと思えます。

藤井議員に関するご意見・ご要望等がございましたら、全国藤井もとゆき薬剤師後援会(下記アドレス)までご連絡くださいますようお願いいたします。

zenkoku@m Fujii.jp